



世界に希望を生み出そう

2023-24 国際ロータリーのテーマ
会長 ゴードン R. マツキナリー

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ



会報

2023 ▶ 2024
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長目標

留萌に希望を生み出そう ~CREATE HOPE in the RUMOI~

会長/武田 佳彦 幹事/西原 正幸

プログラム

- 本日
会員卓話「我が生い立ち」 川村 裕之 会員
- 次週予定
来賓卓話「地方活性化の私見」
道庁職員 坂本 様

結婚記念日

田 中 美智子
大 嶋 孝 広

【第8回・第9回 合併号】

No. 2967 第8回 8月30日

出席報告

前例会

会員総数	25名
出免会員	5名
出免出席	2名
基準会員出席	13名
出席率	59.09%

例会/毎週水曜 12:15~13:15

🖋️ 会長報告

- 8月18日留萌平和式典が開催され、参列して参りました。
- 8月21日、第3回定例理事役員会を開催し、9月例会プログラムのお月見例会の事業内容の承認と10月開催の地区大会の留萌クラブとしてのスケジュールについて審議しました。後日、皆様には改めてご案内申し上げます。

🗨️ ニコニコBOX

- 本日の会員増強プログラム、よろしくお願ひ致します。 武田会長
- 会員増強担当プログラムです。よろしくお願ひします。 燕エレクト
- 今日は暑いです。 西原幹事
- ただただ暑いですね。 高橋親睦活動委員長
- 会員増強卓話、楽しみにしています。 谷口会員
- 燕エレクト、卓話楽しみにしています。 関野会員

📁 幹事報告

- 地区ガバナー事務所より、全国囲碁大会の案内を受領しました。
- 地区国際奉仕委員会より、タイ検証ツアーの案内が届いております。回覧致します。

前 回	205,500円
今 回	7,000円
累 計	212,500円

プログラム……………

会員増強プログラム 燕 会員増強委員長
「ロータリーの会員増強と公共イメージ」

～クラブとロータリアンの成長を図るための
4+1ステップ～

R I 2840地区パストガバナー 田中久夫様の
講演から。

マズローの法則では、一般社会人は段階的な
欲求の実現を求めている。(マズローの法則)
自分らしく。(自己実現欲求)・特別でいたい(承認
欲求)・歓迎されたい(社会的欲求)・安全に
暮らしたい(安全欲求)・食べたい、休みたい(生
理的欲求) / ・クラブ内の地位(目標を叶えたい)
・クラブ内友情(仲間に認められたい)・クラブ
に所属したい(どこかに所属したい)・日常生活
(普通に生活がしたい)

クラブとロータリアン成長までの4ステップ
クラブの成長は4段階の実現から(マズローの
法則・改) 1. 奉仕の仲間と集う⇒楽しい所に
人は集まる。 2. クラブの居心地を改善する⇒
会員増強・維持の絶対法則。 3. 弊害・障壁を
取り去る⇒全国のクラブには共通した4つの問
題点がある。 4. クラブの将来像を構想する。
⇒全員で○年後を話し合う。

クラブの将来像を構想する
目標設定：○年後どんなクラブになっていた
いか？

新会員が感じてきたロータリーのイメージ
1. クラブへ入会のきっかけは知人や友人から
勧誘されたから。
2. 入会前は地元の有力者やお金持ちの集まり
で敷居が高いと事と思っていたが、
3. 入ってみると楽しいし、皆が仲良く接して
くれるので、
4. 多くの友人・知人が出来た。また異業種の
仲間も広がった。
5. でも若手の会員や女性会員は少ないし、会
費やそれ以外の金銭的負担も重い。
6. 今後は、例会の回数を増やしたり、活動を
アピールするイベントを開催する事が必要だ
と思う。

*これを分析・解消する事に、ロータリーやク
ラブの将来がある様に感じます。

生きていくうえで、欠かしてはならない3つのもの
お釈迦さまは、人が生きていくうえで欠かし
てはならない大切なものは、1つは人生の「師」。
2つは人生の「教え」、3つは人生を共に語り合
える「友」だと説諭されました。すべて、ロー
タリーによって見つけられるものです。

ロータリーを知るための「勉強会」を開催する

1. ロータリーの目的とは？
2. ロータリーが最も大切にしているモットー
とは？
3. ロータリーに入ったら何がえられるのか？
4. ロータリーと他の奉仕団体との違いは？

この説明が出来るようになるために多くの若
手会員が勉強するようになった。結果、会員の
資質とクラブの格式が上がった。ロータリーの
本質を失って退会防止にもなった。

準備した回答 1. 定款第4条ロータリーの目
的を説明。 2. 決議23-34、四つのテスト、中核
的価値観の説明。 3. 元R I 会長ガンデイガー
の「ロータリーに入るといい事がある」の9項
目の説明。 4. Lクラブを想定して職業奉仕の
思想の存在とアイ・サーブとウイ・サーブの違
いを説明。

国際ロータリー定款第4条(田中私訳)

- 第1. 心の友を得て、自己研鑽の場とすること
- 第2. 職業は社会に奉仕する手段の一つである
事を理解し、その倫理性を高めるとともに
各自の職業を高潔なものにすること。
- 第3. ロータリアン一人ひとりが、個人生活や
職業生活や社会生活において、日々奉仕の
理念を実践すること。
- 第4. 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的
ネットワークを通じて国際理解、親善、平
和を推進すること。

もう一つ知っておきたい「ロータリーのモッ
トー」2つのモットー

1. 超我の奉仕
 2. 最もよく奉仕する者、最も多く報われる
- *ロータリーの基本を知る事。目的。楽しみま
しょう。

プログラム

- 本日
来賓卓話「地方活性化の私見」
道庁職員 坂本様
- 次週予定
会員卓話「職業奉仕の話」
クラブ運営委員会 辻本 哲也 会員

- 会員誕生日
辻本 哲也
- 結婚記念日
伊藤 伸一
- 配偶者誕生日
青山 志保

【第8回・第9回 合併号】
No. 2968 第9回 9月6日



前例会

会員総数	25名
出免会員	5名
出免出席	3名
基準会員出席	12名
出席率	52.17%

例会 / 毎週水曜 12:15~13:15

幹事報告

- 羽幌ロータリークラブより、9月例会プログラム並びに8月会報を受領しました。
- 9月例会プログラムのお月見例会の詳細が届いております。後ほどFAXにてお知らせいたします。

- もう少しという事は意外と長い事を知る今日この頃です。高橋親睦活動委員長
- まだまだ暑いですね。川村さん、我が生き立ち頑張ってください。桜元会計
- 川村さん、我が生き立ち楽しみにしています。谷口奉仕プロジェクト委員長

3分間情報

クラブ運営委員会 榊井 副委員長
「RLI創始者デヴィット・リネットの言葉」
ロータリーは高い質の会員に恵まれています。しかしすべてのロータリークラブは、私たちの会員の才能や技能を利用して、高いレベルの成果業績へと導いてくれる傑出したリーダーシップに依存しています。年1回のクラブ会長や他の役員交代は、毎年クラブの高いレベルを維持しようとすればクラブに大きなプレッシャーを掛ける事になります。ロータリーとリーダーシップの技能の卓越した教育を通じてのみ、私たちはロータリーを世界の奉仕組織の最前線に保つために必要なリーダーシップの質を向上させることが出来るのです。

前回	212,500円
今回	4,000円
累計	216,500円

ニコニコBOX

- 会長代理、頑張ります。よろしくお祈りします。青山副会長

プログラム

会員卓話「我が生き立ち」

川村 裕之 会員



私は昭和34年12月7日、苫前町で、明治大正昭和の3世代のニシン漁師の家に二男・女五人の末っ子で誕生しました。親の漁業は廃業と共に38年苫前町より増毛町別荘に引越

しまして別荘小学校へ通っていましたが、小学校3年の時に親が留萌で仕事を始めるという事で、転校して留萌にやってきました。一番ビックリしたのが、街の中を自動車が走っている事で、今まで住んでいた別荘は人口が200人前後の小さな町でしたので、普通に馬そりや

第8回 8月30日(水) 天候/晴

オート三輪で走っていてもトラックが走る位で、自動車が街の中を縦横無尽に走っているのが初めて見る光景でした。信号を渡れなかった記憶があります。別荘小学校から全道一のマンモス校だった留萌小学校に転校して来たものですから、転校してきて2日目までトイレに行ってもクラスへ戻れなくなった記憶があります。それがショックで、それから学校の中を回って記憶した事を覚えています。元々人見知りもなく、健康で人付き合いも良く、色々冒険心も強く、街中を冒険して回ったものですが、何せ人が多いものですから、街の中を覚えるのに2年位かかりました。その内現在でも呼ばれている通り名カッペが浸透していきました。

ここで通り名「カッペ」の由来について少し説明をします。幼少期、両親が共稼ぎだったものですから、おばあちゃんに育てられました。そのおばあちゃんが東北訛りの人で、実際何を言っているのかわからなかったのですが、自然とその訛りが身に付いたのか、留萌に来た時は田舎っぺ大将の田舎者というあだ名で、それからカッペと言う名が浸透し、今に至ります。

小学時代が過ぎ、昭和47年に留萌中学校に入学。中学時代はほとんど学校にも行かないでアルバイトに明け暮れました。先生にも呼ばれて指導を受けたのですが、まったく聞く耳は持たず、それは親が自営で小さい頃からその手伝いをしていたので、その頃からお金を稼ぐというのが好きになったのだと思います。中学校2年生になった頃校長先生に呼び出されました。後藤秀雄先生ですが、私の媒酌人までやってくれた人でした。父親も勉強したいのにできなかった人だからお前だけは一生懸命勉強をして欲しいといわれ、無事に留萌工業高校へ入学する事が出来ました。昭和50年工業高校に入学しましたが、入学後は部活のバスケットボール部とアルバイトに明け暮れました。昭和53年に卒業後、進路は自営業で苦勞している親を間近で見ているため、サラリーマンに憧れて札幌で就職。しかし、3ヶ月で退職してしまいました。退職のきっかけは中学校時代のアルバイトより給料が安く、上司にその話をするも納得がいかず、そ

の後留萌へ戻る事にしました。その年の10月から家業を手伝うも、世の中の色々な常識が分からない事に不安を感じ、翌年4月に再度本社が横浜の企業へ就職を致しました。その後、35歳の時に留萌営業所が閉鎖になり、単身旭川支店へ勤務となりました。私は入社当時から将来設計を明確に持ち、40歳で退職し自分で会社を立ち上げる事を目標に仕事を励み、無事40歳で退職をいたしました。

退職後5年間の準備期間を経て、45歳で現在の有限会社川村を立ち上げました。その後準風帆に経営するも、近年の世界的なコロナ感染症により、今までの事業形態を大幅に変更せざる負えない事態に直面。また私自身も体調を崩し、今までの価値観や人生観がガラリと変わりました。そんな日々の中、様々な事が起り、目まぐるしく変化していく時代、「これからの自分に何か出来る事は無いか」と考え始めたタイミングでロータリークラブへの誘いを受けた事がキッカケとなりました。正直、今回の我が生い立ちの話を頂いた時には、「まだまだ人生を振り返る気はない」と思っておりましたが、意外に振り返ると、改めて私は周りの人に守られ、助けられて生きてきたことに気づかされました。そして今後は、私も誰かを守り助けられるような存在になっていきたいと強く思いました。

これからロータリークラブで地域に貢献できるように、微力ながら努力していく所存です。今後ともよろしくお引き立ての程お願い致します。

以上で我が生い立ちを終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。